

ATI認定 樹護士アーボリスト®第2次審査 エバリュエーター 評価採点票

受験者氏名	NAME (ローマ字記載 姓名)	性別	血液型
電話番号	住所		
携帯電話 緊急連絡先	続柄 ()		
エバリュエーター1 氏名	エバリュエーター2 氏名	日時: DATE / /	
試験会場	住所		

エバリュエーター&受験者 事前確認 重要事項 (この評価採点票は公開されています)

- ・「樹護士アーボリスト」審査試験は、アーボリストの名を冠するにふさわしい専門職人としての基本的スキルを評価認定するものです。高木管理の現場作業において使用するギア類の適切な取捨選択、フィールド計画と設計、チーム作業の連携と安全、適切なクライミングおよびワークポジショニング、そしてリギング技術の基本スキルについて評価を行い認定します。
- ・この認定のための評価は、得点数だけで合否を決める通常の実技試験とはやや異なり、アーボリストの現場実践に必要な基本的スキルの理解度や修得度を各セクションの試技の総合評価として認定するものです。エバリュエーターは受験者に対する質問などを伴って評価を行っていきます。認定評価される内容と課題は事前に細かく提示されています。
- ・受験者はエバリュエーターからの質問や指示ある時は自らの試技について追加説明したり実技の修正ができなくてはなりません。
- ・エバリュエーターは受験者が、事前にこの審査試験の「目的」と「内容」を十分に理解していることを確認します。実際の現場作業を想定した各セクションでは、アーボリストとしてふさわしい適切な現場仕事の遂行を想定した課題が与えられます。
- ・チャンピオンシップ競技時の採点基準とは異なります。また「マスターアーボリスト」など熟練技術を身につけたレベル認定ではなく、基本に則ったベストプラクティスの遂行を評価認定します。
- ・受験者に不明な点がないよう、セクション開始事前に質問を受けつけます。
- ・受験者は必要に応じてエバリュエーターにグラウンドワーカー役として作業の補佐を指示することができます。ただし指示できる内容は各セクションで認められたことのみとします。
- ・エバリュエーターは、受験者の試技や説明が不十分である場合には、再質問などを行い、それでも改善がされない場合には、該当の項目について「警告」を与え、または各評価項目の可否を評価します。
- ・ギア他、物を落下させた場合は警告となります。ただし、インジャリーフリーの物はその限りではありません。
- (インジャリーフリーとはケガの可能性が極めて低いもので、スローライン・手袋・ハンカチ・セーフティーグラス等。ペンはインジャリーフリーではない。)
- ・重要なコールがない場合は3回につき警告1回となります。ただし、「セクション2 スローライン セッティング」においてはコール1回ごとに警告1回です。
- ・重要なコールとは、スロー・ヘディック・オンロープ・パークチェック・バウンズチェック・クライミンアップ・クライミングダウン・オープンロープ・スタンドクリアー・オールクリアーです。
- ・各セクションおよび全体での合格には、70%以上の“Complete”または“Pass”が必要です。
- ・致命的なミスまたは試技が未達成な場合は「失格」となります。また各セクションごとの「警告」3回で「失格」となります。各セクションごとに「合格」または「失格」の認定評価を行います。改善が必要な項目と内容をエバリュエーターから伝えられます。
- ・「合格」のセクションについては、1年以内の受験に限り免除されます。ただし、「セクション1 ギア インスペクション」と2次試験のセクションごとの免除はありません。
- ・TW/CSの認定資格ある者が実技評価を受ける場合は、カッティングとリギングに該当するセクションに限定して評価認定が行われます。
- ・全てのセクションで評価認定に合格した者は、認定「樹護士アーボリスト」の称号を冠して業務遂行にあたることが認められます。

5. ツリー&サイト インスペクション

このセクションでは、樹木作業に臨む際の樹木およびフィールドのインスペクションの理解を評価認定します。
樹木およびフィールドの精査点検と説明は10分以内で行ってください。
※このセクション5～7は連続して行われます。

【受験者が用意するもの】

・インスペクションとプランニングの為の手許メモを作成する準備をします。ヘルメットを着用。

【エバリュエーターが事前に準備するもの】

・樹木とフィールドの双方のインスペクションを想定します。

・会場によっては写真等の使用による課題提供をします。

・筆記試験を準備します。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターは、事前に対象樹木と想定する作業内容を伝えます。 「現場の樹木およびフィールドのインスペクション（精査）を行い説明して下さい。仕事で使用している作業計画チェックシートなどがあればそれを使用して説明することもできます。メモなどを作成しても構いません。」 ・受験者が、次の項目を網羅して樹木と周辺環境の精査をすること求めます。地上の支障物、樹上空間の障害物、主幹や樹冠の様子、樹木全体の構造や安定性、電線などの要素を含みます。	・電気施設や電線の配置などの確認	Complete ・ Incomplete	
	・地上支障物 / 空間支障物の確認	Complete ・ Incomplete	
	・樹木の構造的特性 / 安定性の確認	Complete ・ Incomplete	
	・樹木とその周辺 危険因子の確認	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数 回	セクション合否結果	
	セクション5 このセクションの結果	失 格	合 格

6. ワークプラン

このセクションでは、樹木作業に臨む際のワークプラン構築の適確性を評価認定します。
樹木およびフィールドの精査点検の結果、ワークプラン概要の説明を10分以内で行ってください。
※このセクション5～7は連続して行われます。

※指定された枝をチーム作業として安全に降ろすことを想定し、リギング作業でのゾーンニング、チーム人数、役割分担、レスキューの役割などについて計画と構想を説明します。

※制限時間10分

【受験者が用意するもの】

・インスペクションとプランニングの為に手許メモを作成する準備をします。ヘルメットを着用。

【エバリュエーターが事前に準備するもの】

・必ずしもタイムツリーではない樹木の一部の枝のリギング作業が想定できるように準備します。樹木とフィールドの双方のインスペクションを想定します。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターは、事前に対象樹木と想定する作業内容を伝えます。剪定する必要がある枝を想定し、その枝を降ろすことを作業目的として伝えます。 「現場の作業計画の想定を説明して下さい。仕事で使用している作業計画チェックシートなどがあればそれを使用して説明することもできます。メモなどを作成しても構いません。」 ・受験者が、枝を下ろす際のドロップゾーンやセーフティゾーン、ワークゾーンの指定を含むリギング作業計画を説明できることを評価します。 またグラウンドワーカーとの協力連携などチーム作業の想定やレスキューの計画も説明できることを確認します。	グラウンドワーカーと協働連携する作業計画の概要説明		
	・セーフティーゾーン、ドロップゾーン・ワークゾーンのゾーンニングの説明	Complete ・ Incomplete	
	・指定された枝を吊り降ろす計画と手順、必要な作業についての概要の説明	Complete ・ Incomplete	
	・想定するクライマーの登攀ルートについての説明	Complete ・ Incomplete	
	・事故が発生した場合のレスキュー対応に関する説明	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数	回	
	セクション6	このセクションの結果	
		失 格	合 格

7. ワーククライミング（リムウォーク・リギング）

※セクション5～7は連続して行われます。

あらかじめ設置されたスローラインにMRSセッティングをして、クライミングします。樹上到達時には樹上でのインスペクションを行います。地上のグラウンドワーカー役と連携しての作業を基本とし、あらかじめ指定された枝までリムウォークをして、ランヤードをタイインし安定したポジショニングでミスマッチによるスナップカットの設定でハンドソーの試技を行い、リムトスを行う。その後移動しバットタイの設定で伐り、吊り降ろす一連の作業を模擬(実際には伐らない)で行います。

セクション6でのプランに基づき、指定された枝のバットタイ吊り降ろしに最適な位置にリギングブロックをセットし、樹上でのリギング設定を完成させます。この際、必要なギア類を要求する指示をします。併せてタグラインを設置する要否も判断し、地上との円滑なコミュニケーションを取り合い試技します。どのような設定を予定しているか、地上からもよくわかるように説明をしなければなりません。受験者はリギングの設営完了の後、切断作業のために最適なワークポジショニング姿勢をとり、リムカット(模擬)作業となります。途中でのプランの変更は、グラウンドワーカーと連携をとり、行うことができます。

エバリュエーターの合図の後、樹上でのリギング用ギアをすべて安全にかつ地上と連携しながら降ろす安全作業を行います。

最後にクライミングダウンし、オープンロープした段階で試技終了となります。

【受験者が用意するもの】

持参した全てのギアの中からこの作業に必要なギアは全て準備します。

【エバリュエーターが行う事前準備】

- ・レスキュー用スローライン・レスキューキット
- ・この評価採点においてエバリュエーター1人がグラウンドワーカー役を担います。グラウンドワーカー役は受験者の指示ある場合のみ補助作業を行います。不明な点があれば受験者に質問をします。
- ・リムカットする部分(切断予定箇所)にテープを巻いて表示します。
- ・リムウォークをしてハンドソーの試技をする箇所を鈴を取り付け、リムトスを行う箇所にトス用のリムを入れたバスケットを用意する。
- ・リギングブロック設置の候補となる場所2箇所にテープを巻き表示します。どちらがより適切な位置か受験生が自ら判断し選択できるようにします。(どちらも安全にリギングできる可能性がある位置とします)

【受験者への注意事項】

- ・クライミングロープを使って引き上げることのできるギアは、リギング用ロープ1本のみとします。リギングギアを持ってクライミングするか、後からグラウンドワーカーに樹上に送り上げてもらうか選択し、いつでも要請ができます。
- ・受験者は樹上で行う作業の内容について逐次説明をしながら行います。バットタイによるリギングシステムと必要であればタグラインの設置を完成させてください。
- ・どのような枝の切り方をするのか、枝の動きの想定も事前に説明しなくてはなりません。グラウンドワーカーに対して、安全で適正な立ち位置やローワリングデバイスの巻き数なども指示し説明します。
- ・タグラインを設置する際は、樹上での結び方や枝の切り方、引く方向やタイミングなどの手順をグラウンドワーカーに指示し説明してください。
- ・実際には枝の切断や枝下ろしの行為は実施しませんが、フリクションコントロールの加減についても十分に説明ができなくてはなりません。
- ・リギングシステムの修正は、3回迄認められます。所定時間の範囲内ですべてを終わらせてください。
- ・ローワリングデバイスは受験者がクライミングアップする前に自分で取り付けてください。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターは、以下の指示と説明をします。 「指定された枝の剪定のため、MRSでクライミングをして、幹から3m離れた枝先にリムウォークをします。指定された箇所（鈴）をハンドソーで鳴らし、あらかじめバスケットに用意されているリムを使い、自分で指定したドロップゾーン内へリムトスを行ってください。 次に移動しバットタイによるリギング吊り伐りとしてのリムカットを行う設定を完成させてください。リギングブロックの設置箇所は2箇所から選択できます。必要なギアの樹上への上げ下げ、ローワリングデバイス操作等、グラウンドワーカーへの指示や説明など十分な連携をとり作業を行ってください。ただし地上でのローワリングデバイスの設置は受験者が行ってください。リムカットの準備がすべて整ったところで合図をしてください。」 合図があった後、エバリュエーターは以下の質問を行います。 「どのような理由でそのリギングブロックの設置箇所を選択しましたか。タグラインを設置した理由(またはしなかった理由)を説明してください。また、カッティング方法と枝の動き、グラウンドワーカーへの指示などについて説明してください。」 「カッティングをして枝を地上に降ろすまでの模擬行ってください。」 枝を地上に降ろすまでを制限時間40分で行ってください。 「すべてのリギング用ギアを樹上から降ろし、クライミングダウンしてください。」 リギングロープ1本に限り、ロープダウンのコールをして意図して落下させることは認められます。 受験者が樹上のギアを回収し、地上ギアの撤収を指示して地上に降り「オープンロープ」をコールして終了となります。開始からここまでの制限時間60分で行ってください。 ・この試験では、フリップによるリングセーバーセッティングを行わないでください。 ・枝の長さ2m、重さ80kgです。(実際の重量と異なる場合があります) ・グラウンドワーカーへの指示は具体的にその都度行ってください。 ・グラウンドワーカーにスローラインを投げさせることはできません。 ・ローワリングデバイスの設置は受験者が行ってください。ただし、ロープを支えることやロープを木に回すことはグラウンドワーカーに指示できます。 ・クライミング前に、グラウンドワーカーへシートバンドまたはクイックヒッチを説明してください。 ・樹上での枝とリギングロープの結束に不備が見られた場合は、地上で再度ノットの確認をします。 【警告について】 適切な手順で課題を遂行することは重要であるが、受験者が危険な場合や作業の意図が不明な場合には、エバリュエーターは必要な助言や警告を行います。 ・重要なコールがない場合は3回につき警告1回となります。 ・適確ではない結びがあって改善できない場合には、警告となります。 ・ランヤードの使用が不適確で改善できない場合には、警告となります。 ・作業の目的や意義を説明できない場合は警告となります。 ・一定以上のスリップは警告の対象となります。	・適切なコールが適切なタイミングで行われているか。	Complete ・ Incomplete	
	・ノットチェック（ロープとロープの結束） シートバンドまたはクイックヒッチ	Complete ・ Incomplete	
	・3mリムウォークし安定した姿勢でタイイン。 制御された姿勢で、指定の箇所から3m先までの間をリムウォークする。	Complete ・ Incomplete	
	・リムウォークした先で安定姿勢を保ちながら、ハンドソーで指定された箇所（鈴）を鳴らし、リムトスの試技を行う。（安定したポジショニング・リムトス）	Complete ・ Incomplete	
	・適切な結びとともに最適なバットタイの状態（ノットチェック（枝とリギングロープの結束） ランニングボーラインまたはクロープヒッチ＋2 ハーフヒッチ）	Complete ・ Incomplete	
	・枝下ろしの際のローワリングデバイスの巻き方の指示指導。	Complete ・ Incomplete	
	・具体的なカッティング方法の説明とグラウンドワーカーに対してリギングロープ他の適切な取り扱いの指示や説明。	Complete ・ Incomplete	
	・ブロックとリギングロープ、その他のギア類を適切に取り扱い、安全で制御されたバランシング吊り降ろしが設定できていること。	Complete ・ Incomplete	
	・すべてのリギング準備を終えて最適なワークポジショニング姿勢とコールを行い、カッティング模擬を行う。	Complete ・ Incomplete	

・警告は、その都度樹上の受験者に伝えられ内容を説明します。この間、時間計測は止めます。 【失格について】 ・グラウンドワーカーに対する適切な説明や指示が不足していたり、受験者またはグラウンドワーカーが著しく危険となる状況では失格となることがあります。 ・過度に危険なスリップやスイングまたはオフロープ状態は失格となります。 ・時間内にすべての課題が達成できない場合には失格となります。	・エバリュエーターからの問いかけに確実な説明ができ試技の要点を理解していること。	Complete ・ Incomplete	
	・いかなるリギングギアも樹上に残すことなく、安全に下降する。地上のリギングギアは撤収の指示を行うこと。	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数 回	セクション合否結果	
	セクション7. このセクションの結果	失 格	合 格